

令和3年度香川大学入学式 学長告辞

令和3年4月3日

本日、香川大学6学部に入学者1,334名の学部学生の皆さん、大学院7研究科に入学者284名の大学院生の皆さん、ご入学誠にありがとうございます。皆さんを今日まで支えて来られたご家族や関係者の皆様には心よりお祝いと感謝を申し上げます。今年度の入学式は2020年初めから続く新型コロナウイルスの感染拡大のため、本部と中継をつなぎながら分散キャンパスで挙行しております。学長として皆さん一人ひとりに直接お話できないことを大変残念に思っておりますが、心を込めてこのメッセージを送らせていただきます。

香川大学は1949年5月に創立し、今年で72年目を迎えました。2003年には香川医科大学と統合し新香川大学となり、目まぐるしく変化を続ける21世紀社会で、地域や日本、そして地球が抱える様々な課題に立ち向かう有為な人材を育成する総合大学として新たな歩みを進めています。その一環として、創立70周年を期して香川大学校友会を2年前に設立しました。これまでは、6学部それぞれに同窓会組織はありましたが、香川大学校友会はすべての学部と研究科の卒業生・修了生・在学生と大学の教職員が連携して、香川大学を一丸となって支援する組織です。在学生である皆さんへの支援を手厚くし、皆さんの大学での生活や活動を校友会として支援してまいります。皆さんが在学中は、この校友会の支援をありがたいものとして受けていただき、卒業後は正会員として香川大学を支えていただくこととなります。

さて、新入生の皆さんは入学試験という難関を見事に突破されて今日の晴れの日を迎えられました。これから様々な学びを体験していくこととなりますが、大学に入学したからと言って急に学ぶ事柄が大きく変化するわけではありません。まずは先人の知識と知恵をたどりながら皆さんの知識基盤を分厚くしていく作業が続きます。しかし、これまでの学びと大きく異なる部分もあります。これからは、自ら問いを立てて、その問いに対する答えを自ら探す作業が増えていきます。もちろん大学は皆さんが問いを立てるにあたって助言や支援はしますが、あくまでも主役は皆さんです。今回の入学試験を含め皆さんがこれまで経験した試験は、すべて解答がありました。しかし、大学では解答を考え出すどころか問題そのものも自分で探さないといけない経験が増えていきます。自ら問題を探し出し解決策を考え出していく能力を身に付けていただくため、香川大学ではDとRとIからなる3つの教育の柱を据えています。一つ目の柱Dはデザイン思考教育です。香川大学では2018年

度に工学部を改組し、創造工学部を開設したのを機に教育の柱の一つとしてデザイン思考教育を開始し、現在は全学共通教育にも展開しています。デザイン思考は、少人数のグループによるチームワーク作業で新しい解決法やアイデア、さらには価値を見出すための思考方法です。複雑化した課題を解きほぐし、何が本質的な問題なのかを見極め、その解決法を考え出し、新しい価値を生み出すプロセスを学んでください。将来、様々な専門領域で働く際にきっと役に立つと思います。二つ目の柱Rはリスクマネジメント教育のRです。今年度は東日本大震災から10年の節目を迎えています。巨大地震と津波が襲い掛かり、さらには福島では原発事故が発生し想定外の惨事と言われました。そして現在は、新型コロナウイルスによるパンデミックに人類すべてが苦しんでいます。しかし、これらは本当に想定外だったのでしょうか。本当はこういった災害や惨事の多くには予兆があり、また歴史が教えているのではないのでしょうか。人間は当座しのぎの根拠のない楽観主義に陥りやすい傾向があります。リスクを予見し、回避する方策を立てておくことはあらゆる領域、あらゆる場面に必要で、これから21世紀を生き抜く皆さんにとって必須の能力となると考えています。三つ目の柱IはInformatics教育のIです。すでに5Gの世界に突入していますが、高度な情報通信技術や人工知能を活用するための基礎的な知識やスキルは皆さんを大いに助け、仕事の効率化に役立ってくれます。言葉を変えると、AIや高度情報通信技術は皆さんを人間にしかできない仕事に集中させてくれる友達になるはずで、Iの能力を高めることは、今回のコロナ禍でも証明されたように、危機を救ってくれる大きな力にもなります。今年からPCは全学部生が必携となりました。大学からの皆さんへの情報はすべてHPや教務システムアプリなどで流れます。PCやそのほかの情報端末を賢く利用して、学びのスキルアップを図ってください。

話は変わりますが、香川県は日本一面積の小さな県です。しかし、陸と海の境界線である海岸線は日本でも面積比でベスト3に入るほどの長さがあります。地球温暖化や海洋汚染など現在この地球が抱える問題の多くが香川県や瀬戸内の海岸線に沿って表出していると言えます。我々が愛する日本の国土や地球そのものも人間の体と同じです。人間の体は毎日呼吸を続け、心臓が鼓動を打ち、定期的に栄養を体外から摂取し、老廃物を排出して命を継続しています。この一連の営みの回転を継続することで健康は維持されています。

大都市圏にあらゆるものが集中する一極集中型の日本の国土は今、この健康的な循環サイクルが滞ろうとしています。今から約4年前、日本の研究者たちが人工知能を活用して2050年までの日本の行く末のシミュレーションを行いました。約2万通りのシナリオが検証され、その結果2050年に至っても日本が健康を維持できるのはたった一つのシナリオでした。それは10年以内に都市集中型から地方分散型に方向転換すること、さらにその後の20年をかけて様々な政策転換を行いながら地域内の経済循環が十分に機能するようにしなければならないというシナリオでした。人工知能が示唆するように大方針転換の時期を迎えている我が国ですが、この大方針転換の中心的担い手となるのが、今日入学式を迎えられた皆さんです。

おりしも新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、「ニューノーマル」という不思議な言葉を耳にするようになりました。これまでの「当たり前」が大転換して「新しい当たり前」が登場したような感じです。人々の暮ら

令和3年度香川大学卒業式 学長告辞

令和4年3月24日

本日ここに学士の学位を取得し、卒業式を迎えられた6学部、1,203名の卒業生の皆さんに、香川大学の教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。また、ご家族や関係者の皆様方にも心からの祝意とともに、学生達の勉学を今日までご支援いただいたことに感謝の意を表します。香川大学校友会や各学部同窓会の関係者の皆様には、様々な形で彼らの学生生活を支えていただいたこと、あらためて感謝申し上げます。本来であれば卒業生のご家族や支援者の方々、同窓会の役員様にもご臨席賜り、我々とともに卒業生を送り出させて頂きたかったところですが、今般の新型コロナウイルス感染の厳しい状況を鑑みてお招きできませんでしたことお詫び申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、皆さんへの卒業のお祝いを述べる前にどうしても皆さんと一緒にさせていただきたいことがあります。それは、今、日本から遠く離れた東欧ウクライナで起こっている大変悲しい出来事のことです。犠牲になった人々、今も戦火の下で不安な日々を過ごしている人々を思うと胸がつぶれる思いです。まさかと思っていた第3次世界大戦が身近に迫っている恐怖にもさいなまれます。コロナ禍で感染対策に特段の注意を払って挙行しています本日の卒業式ですが、皆さん静かに起立していただき、一日も早い平和が訪

しただけではなく社会の仕組みも大きな転換点にさしかかっているこの時期に大学生活を開始される皆さんは、ある意味でとても面白い時代に学生生活を送ることになります。これから開始される新学期では大学のキャンパスでの通常の講義は、密集を避けつつ感染対策をしながら進める予定です。皆さんは常にPCを携行してキャンパスに来ていただき、臨機応変に遠隔授業にも対応していただくこととなります。これも新しい時代の大学生活だと思ってどうか楽しみながらやってください。

今年の香川大学のキャッチフレーズは「Now or Never」です。新入生の皆さんは、今しかできない挑戦、ここでしか出来ない経験を躊躇せず失敗を恐れずにトライしてください。香川大学は、皆さんの学びがどのような局面になっても継続できるように教職員一丸となって支援していきます。皆さんの入学後の活躍を期待しています。

れますように一緒に黙とうしたいと思います。

本日卒業式を迎えた皆さん、香川大学の門を初めてくぐった入学式のことは覚えていますか。会場に参加している皆さんの多くが2018年4月入学だと思いますが、実は私が学長になって初めての入学式でもありました。この年は創造工学部が発足したり、経済学部的大幅な改組があったり、医学部に臨床心理学科が新設されるという香川大学にとって大きな節目の年でもありました。初めて入学式を在校生がプロデュースして、先輩たちによる学歌の練習や、隣に座った他学部の新入生とお互いの自己紹介をしました。学長からの挨拶の中で私は皆さんに、大学では専門領域の知識やスキルを学ぶとともに、様々な人と出会って交遊の輪を拡げ、形のない資産すなわち無形資産を大いに蓄えてほしいとお伝えしました。卒業生の皆さん、無形資産は十分蓄えることができましたか。本日の卒業式を迎えた皆さんが、香川大学での学生生活で得た様々な無形資産を大いに生かしてさらなる飛躍を遂げてくれることを学長として心から願っています。

皆さんはここ2年間あまり、新型コロナウイルスの感染拡大のために多大な影響を受け、様々な局面で制約の多い、つらい時期を体験しました。一方で、本学が1949年に開学以来、類を見ない種類の経験や気づ

きを得た卒業生ともいえるのではないのでしょうか。まず一つは、近年目覚ましく発達した情報通信技術の価値を体感したことです。いきなり遠隔授業が始まり戸惑ったことと思いますが、皆さんが迅速に対応できたのはさすがでした。日々の生活はもとより、学びやサークル活動を継続させるためにもICTを存分に利用したことと思います。逆に、友人や先生と目と目を見ながらコミュニケーションをとることの大切さも再認識したことかと思えます。もう一つは、今回のCOVID-19の経験を通して、地球上の人類は皆さんの想像以上に近い距離で関係しあっていることに気づいたのではないのでしょうか。日本は島国なので遠いアフリカや地球の裏側の南米での出来事は関係がないと感じていた方も多かったと思いますが、このウイルスの前には国境は全くありませんでした。

新型コロナウイルスの感染拡大に翻弄された学生生活ではありましたが、この間に嬉しいニュースもありました。皆さんの在学中に3名の日本人研究者がノーベル賞を受賞されました。生理学・医学賞の本庶佑先生、化学賞の吉野彰先生、そして、真鍋淑郎先生の物理学賞の受賞です。本庶先生は癌の免疫治療薬の開発、吉野先生はリチウムイオン二次電池の開発をされました。そして、真鍋先生は温室効果のメカニズムを詳細に研究され、独自に開発された気候モデルによって極めて正確に地球表面の温度上昇を予測されました。真鍋先生によるこの地球の温度上昇モデルは何と50年前に発表されたものです。50年前の1970年代前半の日本人は、地球の温暖化が加速度的に進行し、激しい気候変動の時代がやってくるとは想像もしていませんでした。しかし今や、二酸化炭素濃度の増加が地

令和3年度香川大学大学院修了式 学長告辞 令和4年3月24日

本日、香川大学から修士の学位を授与される141名の皆さん、修士(専門職)の学位を授与される44名の皆さん、博士の学位を授与される32名の皆さん、誠におめでとうございます。とりわけ、今回学位を授与される20名の留学生の皆さんにおかれては、このコロナ禍の中で異国での生活によく耐え、研究成果を見事に結実されたこと嬉しく思います。本日修了式を迎えられた皆さんを直接指導された教員はもとより、香川大学の全教職員を代表して皆さんの努力に対して敬意と祝意を表します。

これで累計しますと香川大学が授与した修士号は

球温暖化の主原因であることは疑いのない事実です。地球温暖化のペースを鈍化させるため、2050年カーボンニュートラルは地球人全体のミッションとなっています。地球環境の悪化を阻止し、さらに人々が平等に平和な生活を営むことのできる世界を実現するため、持続可能な開発目標、すなわちSDGsの達成が、地球上で暮らす我々にとっての共通の目標となっています。本日卒業式を迎えられた皆さんは、まさにSDGs達成の主役として活躍してもらわねばならない世代です。職種や専門領域に関係なく、地球人であることを強く認識してこれからの人生を歩んで行ってほしいと願っています。

さて、医学の進歩や栄養の改善などで人生百年時代が到来しています。生まれて学校に通い就職して、「はいご苦労様」という単純な3段階の人生設計はすでに過去のものとなりつつあります。本日の卒業式は皆さんの人生にとっては第一回目の大学卒業ととらえてください。香川大学は大学院を中心に、皆さんが社会人になっても再び学びを深める様々な機会を提供しています。「学び」、「働き」、「遊び」、「楽しむ」、そして再び、「学び」、「働き」、「遊び」、「楽しむ」を続け、健康な体で出来るだけ長く皆さんが社会に貢献してくれることを期待しています。サミュエル・ウルマンの有名な言葉があります。年を重ねただけでは人は老いない。人は理想を失うとき初めて老いる。青春のただなかにいる卒業生の皆さん、それぞれの目指す理想を見失うことなく学び続け、自らを磨き続けて人生を歩んで行ってください。皆さんのこれからの人生が瑞々しく光り輝くものであることを祈っています。

本日はおめでとうございます。

5,527、修士号(専門職)は766、博士号は1,281となります。皆さんは大学院生として厳しい研究生活を送り、教育学、法学、経済学、医学、工学、農学、経営学と言った多様な専門領域で日夜努力し、研鑽を積み、立派に研究成果を纏められました。特に、博士号を授与される医学系研究科の23名や工学研究科の9名の方々の研究テーマの内容を拝見しますと、生命科学分野から自然科学分野、人間工学分野や土木工学分野などまことに多岐にわたる分野に研究テーマが広がっています。しかし、どの研究テーマにも共通するのは、研究成果が何らかの形で人類の幸福な生活の維持・

発展に寄与するものであるということです。今回博士号を授与される32名の皆さんの中で工学研究科博士後期課程の総代を務められ、尚且つ、学長表彰も授与される角野拓真さんの研究を少し紹介したいと思えます。角野さんの研究テーマは、橋脚のリスクポテンシャルの評価方法と維持管理手法に関するものでした。気候変動による豪雨災害や大規模地震などが想定される中で、橋脚の損壊を如何に未然に察知し、修理補強などにより回避させていくかを、河川の水位の変化などの膨大な数値データを解析し、人工知能を用いた精密なシミュレーションで解決方法を提案されています。この研究成果は、今後さらにブラッシュアップされて、老朽化を迎えた橋脚の損壊予防方法として日本はもとより世界中で活用されると思えます。

さて、本日修了式を迎えられた皆さんは例外なく論文を書く作業に没頭されたと思えます。多少私の偏った意見かもしれませんが、領域を問わず論文を完成させる過程は意外と単純で共通しているのではないのでしょうか。すなわち、「文献を読む」「よく考える」「論理的に書く」という作業の繰り返しだったのではないかと思います。一方、研究を始めるにあたって打ち立てた仮説を検証するためには適切な対象を選択して適切な物差しで測定し、証拠を示さないといけません。「測る」という作業は研究の基本中の基本であります。測定を通して証拠が得られたら再び「読む」「考える」「書く」の作業が始まります。大学院生活を通してみなさんが身に付けられた、この「読んで、考えて、書く」そして「測定する」という習慣こそが皆さんが大学院生活で得た大

令和4年度香川大学入学式 学長告辞 令和4年4月3日

本日、香川大学に入学された1,334名の皆さん、誠におめでとうございます。数ある大学の中から香川大学を選んでくれたこと、大変うれしく思います。また、皆さんを今日まで支えて来られたご家族や関係者の皆様に心よりお祝いと感謝を申し上げます。列席の本学役員、副学長、学部長および教職員とともに、皆さんを心から歓迎します。

一昨年春から始まった新型コロナウイルスの感染拡大という難しい環境の中、受験勉強に堪え、今日の晴れの日を迎えられました。まずは皆さんの忍耐強い頑張りに対して改めて敬意を表したいと思います。

香川大学は1949年に創立し、今年で73年目を迎えます。これまでに6学部で62,829名が香川大学を巣立っ

きな財産だと思えます。この習慣は今後の皆さんの人生でも十分に生かされると思えますし、修了後も益々磨いてほしい習慣であります。大学院生活で身に付けたこの科学的態度と論理的思考能力は、皆さんがこれから直面するあらゆる課題の解決にあたって大いに役立つことと思えます。

人工知能が人の仕事の多くを肩代わりし、あらゆるものがインターネットでつながる高度電脳化社会が到来しております。しかし、こういった時代だからこそ、「読む」「考える」「書く」といった基礎的能力がより一層人間に求められると思われます。皆さんが香川大学大学院で培った経験と自信を活かして、香川県はもとより日本を、そして地球上に幸福で持続可能な社会を構築するため大いに貢献してください。

最後に、修了式を迎えられた皆さんにシンプルですがメッセージを贈ります。頭のどこか片隅にとどめておいてほしいメッセージです。それは、学びに修了はない、ということです。そして、学び続けることで自分を磨き続ける、ということです。「学び続ける」ことがこれからの社会で生き続ける必須条件になり、それが結果的に自分を磨き続けることになります。「学び続ける」ことが自分への投資にもなり成長につながります。香川大学の大学院は皆さんが今後も何度でも学んでいただき、知識を更新していただき、ともに課題解決する機会を提供する大学院として改革を続けながらお待ちしております。いつでも帰ってきてください。皆さんの今後のご活躍を心より祈っております。

本日はまことにおめでとうございます。

て香川県はもとより日本の国内外で活躍しています。香川大学は第二次世界大戦前に由来を持つ教育学・経済学・農学の3学部と終戦後に作られた法学・工学の両学部、さらに1978年に誕生した香川医科大学が2003年に統合し、現在の新香川大学になりました。その後、4年前には工学部が創造工学部に生まれ変わり、医学部には臨床心理学科が新設されました。社会や環境の変化などに対応して絶えず新しい息吹を吹き込みながら改革を続け、香川大学は本日、皆さんをお迎えしています。

ここに集まった新入生の約7割の方が香川県以外の出身者ですので、まずは、香川県や瀬戸内、四国のことからお話ししましょう。香川県の平野部には富士山に似



た円錐形の山が点在しています。讃岐七富士とも呼ばれ、丸亀市と坂出市にまたがっている飯野山はその代表格です。ユーラシア大陸の一部であった日本列島が2000万年前に大陸から引き離されて日本海が誕生し、その後四国の下にプレートが沈み込んで火山活動が活発化しました。これらの山々は、讃岐平野にマグマが噴出したことで誕生しました。讃岐富士以外にも、高松市内にある台形の不思議な形をした屋島や高松港から北へ約20キロの小豆島にもこれらの火山活動の爪痕が貴重な自然遺産として存在しています。さて、我々が暮らす地球は、そのはるか以前の約46億年前に誕生したと言われています。香川大学では希少糖の研究を大学の代表的な研究の一つとして位置付けていることは、皆さん良くご存じのことと思います。50種類あまりの単糖の中で、人類を含め動物はブドウ糖と果糖以外は体内でエネルギー源として利用できなくなっており、そのほかの単糖は自然界にごく微量にしか存在しないため、希少糖と呼ばれています。しかし、46億年前に地球が誕生した時には、これら50種類あまりの単糖は既に全て存在していました。人間がエネルギー源にせず、役に立たないと思われていた希少糖が、香川大学での研究により医療や農業、工業などで人類に大きな貢献をする可能性が膨らんできています。先頭を切って実用化が進むD-アルロースという希少糖を作る微生物はなんと香川大学農学部の土の中から見つ

かりました。とても不思議なことですが、私は、46億年前の地球からの香川大学への贈り物と思っています。さて、大学生になった皆さん、これからは多くの方が生まれ育った環境から距離を取り、自分なりの生き方を模索する時期が来ました。高校までの集団での勉学とは違って、皆さんの興味や関心に応じて履修登録し、将来の職業選択も視野に入れつつ学外でのフィールドワークやインターンシップ、ボランティア活動などで社会の人々と触れ合いながら社会的な自己を形成していく人生の大事なひと時です。それでは日本の社会の中での大学生の立ち位置はどうなっているのでしょうか。選挙権は18歳以上にすでに引き下げられていますが、この4月から日本の成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。明治時代から140年間、日本での成年年齢は20歳と民法で定められていましたので我が国にとって一大変革となります。さらに、この4月1日から裁判員資格も18歳以上に引き下げられました。ここにいらっしゃる皆さんは全員成人であると社会からみなされているということです。日本の社会の中で、皆さん大学生が立派な成人としてみなされるようになったということは、学長としては大変良いことだと感じています。責任ある成人として社会の構成員になることと、一方で社会に貢献できるように学びを深め、自らの人格を磨くことは何ら盾した人生の過程ではないと考えられるからです。今、ウクライナではとんでもない戦争が勃発し、多くの

民間人が犠牲になっています。第3次世界大戦が身近に迫っている恐怖を、今世界中の人々が感じています。このほかにも急加速で進む地球温暖化のため、地球上のあらゆる地域で豪雨災害や干ばつが起っています。皆さんが今経験している新型コロナウイルスによるパンデミックも100年に一度の人類の危機と言えます。勉学中の身といえども社会情勢や地球環境の変化に敏感にアンテナを張り、社会人として確固たる意見を持つことが、これまで以上に大学生に求められるようになっていきます。社会のことは大人に任せて自分たちは勉強やサークル活動をしていればよい、などという大学生を日本社会は求めなくなっていることを強く自覚してください。

香川大学の教育の柱であるDRI教育について紹介します。Dはデザイン思考のD、RはリスクマネジメントのR、IはインフォマティクスのIです。皆さんは知識集約型社会という言葉聞いたことがありますか。発見や発明、知識や情報、優秀な人材が単独に存在してもそれだけでは社会の発展には不十分で、多様な知識を集め、様々な個性のある人間を適切に組み合わせることで活力が増し、イノベーションが生まれる、そういった社会を指します。我が国は現在、成長期から成熟期に入り、どんな国にすればよいのか、国自体が戸惑っているともいえる状況にあります。高齢者が増え、出生数は減り、人口が激減するという歴史上どの国も経験したことのない社会にすでに入っているとも言えます。この難しい局面にある日本を生まれ変わらせるには、どの国にも負けない豊富なアイデアで新しい価値を次々と生み出していかなければなりません。その主役になるのは今私の目の前にいる皆さん方です。デザイン思考は人間中心のイノベーションとも呼ばれ、価値を創出し、課題を解決する方法です。この手法を学べば誰でもイノベーターになることができます。リスクマネジメントはデザイン思考と表裏一体で身に付けてほしい能力です。デザイン思考で新しい価値を創造する過程にも様々なリスクが待ち受けています。それらのリスクを可能な限り予見して回避し、避けられなかったリスクに対しても柔軟に対応できる能力は、間違いなく皆さんのこれからの人生に役立つものです。インフォマティクスのIはデータサイエンス能力とも言えます。あらゆるものがインターネットでつながる高度な電脳社会が到来しています。デザイン思考でイノベーションを興すにしてもリスクマネジメントを効率よく行うためにも、効率よく情報を収集し的確に分析できるデータサイエンス能力は大きな力になります。皆さんが将来どのような職業に就くにしても、身に付けていることで間違いなく大きな力になるDRI能

力を、香川大学の全学共通教育では様々なカリキュラムを通して身に付けてもらえる様にしています。さらに、リスクマネジメントとインフォマティクス能力に関しては、今年度から特別な教育コンテンツを用意しました。各々8回の教育コンテンツをe-learningで好きな時間に視聴し学んでいただけるようにしました。さらに、前期終了頃に全学一斉にDRI検定試験を受けてもらうことになっています。優秀な成績を収めた方にはDRIそれぞれのマスターの称号としての認定証を発行する予定です。検定試験は1年に1回ですが、卒業するまで何回でも受験できるようにします。ぜひDRIマスターを目指して頑張ってください。

突然話が飛びますが、植物は開花の時期をずらしたり、背丈を違えたりして、常に多様性をあげようとしているそうです。人間はともするとバラツキを嫌い、標準化を図りますが、生き延びる工夫は植物の方が上手かもしれません。最後になりますが、香川大学は昨年10月にダイバーシティ&インクルージョン推進宣言をしました。多様性を受け止めて支えあう環境作りに一層力を入れるという宣言です。皆さんの中にもジェンダーの問題や、心や体の障害を持ちながら入学されてきた方が少なからずおられると思います。人間は本来、もろく傷つきやすいものです。しかし、皆で支えあって、力を結集するとものすごいパワーを発揮し、不可能と思われたことも可能にする潜在力があることも事実です。香川大学では一人ひとりの学生の個性を大切に、全ての学生が大学生活を通して学びを深め人間として大きく成長する様に、教職員一丸となって皆さんをサポートします。これからの大学生活、楽しんで、そして頑張ってください。

本日はおめでとうございます。



令和4年度香川大学大学院入学式 学長告辞 令和4年4月3日

本日、香川大学大学院に入学した修士課程212名、博士課程48名、専門職学位課程58名の皆さん、入学おめでとうございます。香川大学の教職員一同とともに皆さんの入学を心からお慶び申し上げます。また、これまで皆さんを支えて来られたご家族や関係者の皆様にご心よりお祝い申し上げます。今日から皆さんはそれぞれの学問分野で学問をさらに究めるために新しい一歩を踏み出しました。まさに研究者としての第一歩を踏み出したこととなります。長い人生の中で研究に没頭するひときは、皆さんの人生にとってかけがえのない経験になると思います。

香川大学はこの4月から創発科学研究科という新しい名前の大学院修士課程を開始します。この新しい研究科は、従来の工学研究科に法学研究科と経済学研究科、さらには教育学研究科の一部の教員が参加して研究指導を行います。さらに、医学系研究科や農学研究科、地域マネジメント研究科の教員も教育指導や研究支援で参加します。国立大学の大学院でここまでの規模で理系と文系が融合し、一つの研究科として修士課程教育を展開するのは本学が初めてと言えます。本日の入学式には、医学系研究科修士課程および博士課程、農学研究科修士課程の学生、そして専門職大学院である教育学研究科高度教職実践専攻と地域マネジメント研究科の学生も参加されていますが、皆さんの研究活動にも大に関係すると思いますので、本日はこの創発科学研究科について先ずお話いたします。

研究科の名称に用いている「創発」という言葉、少し聞きなれないかと思います。創発という言葉は自然科学から経済や経営などの社会科学まで幅広く使われていますが、今日は大学での研究に絞って考えてみます。今、専門分野がそれぞれ異なる二人の研究者が共同である研究を始めたとき。その時に生まれる研究成果はA先生とB先生の専門分野から想像される研究成果として実を結ぶことが想定されますが、時に全く想定外の発見、お二人の専門分野からは予想できなかった研究成果が生まれることがあります。そしてこの場合の研究成果は往々にしてとても独創的で人類にとって大変意義のある成果になることがあります。創発という概念はこのような過程で生まれた成果を指します。必然に対する偶然という言葉があり、創発は偶然と同じじゃないかと思われるかもしれませんが実は全く異なります。創発とは、振り返ってみると当初のお二人の研究者の得意分野からあり得ないことではなかったと説明できるものがそれにあたります。こういっ

た創発的研究成果は、できるだけ得意な分野が異なる研究者同士がチームを組むことで生み出される可能性が高くなるとも言われています。要するに1足す1は2ではなく3や4に化けるプロセスと成果が創発です。

21世紀も5分の1がすでに経過する中で、地球はかつてない厳しい状況に追い込まれています。第二次世界大戦後顕著となった人口爆発、大都市化、大量の工業生産物などの結果、地球温暖化が加速化し気候変動は厳しさを増し、海洋や大気汚染は深刻化しています。我が国では世界の先進国に先駆けて高齢化と人口減少が進行し、かつて経験したことのない課題が次々と姿を現して来ています。人工知能が人間の機能を拡充し、助けとなる未来がすぐそこにやってきました。このような現代社会において、特に香川県の様な地方においていかに持続可能な社会を構築していくか、そのためにはどのようなプロダクトやシステムが必要になるか、難しい課題が目の前にあります。これらの課題は既存の専門領域が単独で解決していくにはあまりにも複雑で、本質的な問題が見えにくいと言えます。そのため、なるべく多様な研究者の知を集めての創発的な課題解決方法や発見・発明に期待がかかるわけです。今回の創発科学研究科の開設の基本的な理念もこの点にあると言えます。

創発科学研究科の共通科目にはELSIという科目が設定されています。EthicalのE、LegalのL、SocialのSにIssueのIが組み合わされています。これからの発明や新しい価値の創出を考える時、その計画の当初から倫理的、法学的、さらには歴史学や心理学など人文社会学的な知見を総動員して考慮していかなければならないということ注目されている概念です。例えばゲノム編集という生命科学分野の新技术は、生物の持つゲノムの特定の領域を狙って遺伝子配列を変化させる技術です。誠に画期的な技術で、革新的な治療技術や薬の創出、食糧問題の解決や環境問題の解決など期待されています。一方で、ヒトの受精卵にまで応用範囲が広がりますと、次世代に対する予期せぬ影響などが懸念されますので、倫理的にも法的にも様々な問題が生じます。高度な通信情報技術（ICT）に関しても今や我々の生活にとって必要不可欠な存在になっていますが、フェイクニュースやサイバー攻撃など悪い方向での使用が頻発するようになっています。今後、人工知能が人々の生活を大いに支援する時代がやってきましたが、人工知能を利用したイノベーション創出において



もELSIの観点を十分考慮する必要があるでしょう。

話しは変わりますが、本日の入学式には、学部卒業後すぐに入学されてきた学生以外に、いったん社会に出られて活躍してこられたいわゆる社会人学生の方々が沢山おられます。医学系研究科、教職大学院や地域マネジメント研究科ではこれまでも多数の社会人学生を受け入れてきましたが、今回開設しました創発科学研究科においても社会人の方々の入学に大きく門戸を開きました。背景には、人間の寿命の延伸に伴い、長く社会で貢献するために何回も学び直しをしていた

だく機会を提供したいという本学の期待があります。人生百年時代になり、multistepな人生設計を多くの方が立てていく時代が来ております。今回が初めての大学院入学という方が多いかもしれませんが、今後は何度でもトライしていただくことを願っております。

皆さんが選択した大学院での生活、間違いなく皆さんの人生にとってかけがえのない貴重な時間になります。どうか無駄にせず大切に過ごして下さい。期待しています。

令和4年度香川大学卒業式 学長告辞 令和5年3月24日

本日ここに学士の学位を取得し、卒業式を迎えられた6学部、1,283名の卒業生の皆さんに、香川大学の教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。また、ご家族や関係者の皆様方にも心からの祝意とともに、学生達の勉学を今日までご支援いただいたことに感謝の意を表します。香川大学校友会や各学部同窓会の関係者の皆様には、様々な形で彼らの学生生活を支えていただいたこと、あらためて感謝申し上げます。

さて本日卒業式を迎えられた皆さんの多くは、2019年すなわち令和になって初の入学生でありました。香川大学では2018年度からできるだけユニークなスタイルの入学式で皆さんを迎えようと考え、在校生がプロデュースする入学式を始めました。この会場での事前オリエンテーションで他学部の入学生と自己紹介し

あったり、先輩たちに指導されながら学歌を斉唱したりしたことを覚えておられますか？合唱部の皆さんが学歌を高らかに歌い上げ、私自身も皆さんの大学生活が楽しいものになるようにとの願いを込めて指揮をさせていただきました。ところがその約1年後から、新型コロナウイルス感染症が世界中を襲うというかつてない異常事態となりました。皆さんもいきなりオンライン授業やマスク生活の日々となりました。部活動やサークル活動もままならず、アルバイトによる収入も激減し、様々な不自由や孤独感、不安感を体験したことと思います。これら様々な困難を乗り越えられて本日無事卒業式を迎えられたこと、あらためて敬意を表したいと思います。

一方で、皆さんはこれまでの先輩卒業生たちとは比較にならない頻度で通信情報技術を活用した学びを

体験されました。沢山レポートを提出しなければならなくて不満に思ったこともあったかと思いますが、一方でオンデマンド型授業では、何度も講義を繰り返して聴きなおすことができるメリットも享受したのではないかと思います。一般社会においてもテレワークが一気に普及し、働き方も大きく変化してきています。皆さんは、COVID-19という人類史に残る出来事を起点とした大きな社会の転換点で卒業式を迎えていることとなります。これから人間社会がどういふ変化を遂げるか予測がつかませんが、こういった高度通信情報技術や人工知能に支えられた社会、いわゆるSociety 5.0と呼ばれる社会の中で生活していくことは間違いないでしょう。これから社会の中心となって大いに活躍することになる皆さんはデジタルネイティブと呼ばれる世代です、このような社会の変化を自然に受け入れて上手に暮らしていくことと思います。

しかし私はここで、あえて皆さんに注意を喚起しておきたいと思います。それは、どんなに生活が便利になっても、人生における幸福感や充実感を得ること、すなわち「幸せに暮らす」と「便利に暮らす」とは全く次元の違うことであるということです。「ポツンと一軒家」という所ジョージさんがMCの人気番組がありますが、ポツンと一軒家に住んでいる方々でも孤立した生活ではなく、地元のコミュニティの人々と何らかのつながりを持って暮らしておられます。むしろ結びつきは都会生活者より強いかもしれません。人間は一人では生きていけない動物です。言葉を変えると、人間は集団で生活することで他の動物たちの頂点に君臨することが出来たと言えます。人間は他者の役に立っていると実感する時に幸福感を強く感じる生き物です。今日は皆さんの旅立ちの日です。皆さんが大学で受けたりベラルアーツと呼ばれる教養教育、そしてそれぞれの専門の学問領域の知識やスキルを活かして、皆さんが所属する社会の人々を幸福にしてあげる機会がいよいよやってきました。皆さんがこの世に誕生し、これまでご

両親を含め多くの人々に支えられて今日まで勉学を続けてこれましたが、今度はその恩返しをするステージに立っているわけです。

とはいえ、まだまだ皆さんは多くのことを学び成長を続けなければいけません。就職して直ちに社会に出る卒業生も、大学院へ進学する卒業生も学ばねばならないことはまだまだ山ほど沢山あるでしょう。ましてや、人生百年時代と言われるほどに人間の寿命が延伸してきています。ただ、生き続ける時間が長くなるのではなく、自分自身の健康にはひときわ留意しないといけません。なぜなら健康寿命が長いほど社会に負担をかけない存在でいられるからです。しかしそれだけでは不十分で、出来る限り長い期間にわたって社会に貢献できることが大変重要になります。本日卒業式を迎えた皆さん、これから自らの人生のあるべき将来像をイメージして、ライフプランを設計してみてください。その過程では、学び直しを必要とする時期が必ず来ると思います。その時のために大学は門を大きく開けて、何でも皆さんを迎え入れる準備が整っています。大学院を始め、社会人に対する様々な教育研修コースも用意していますので、大いに活用してください。

ここに集う卒業生の皆さんは、それぞれの分野でぜひ成功を収めてほしいと思いますが、焦らないで良いと思います。失敗も沢山経験してください。皆さんのこれからの人生にとって最大の目的は「成功すること」ではないと思います。もっと大事なことは「成長し続けること」です。成長し続ける強い意思を持った人は他人に対してとても謙虚になれます。その上、人々の役に立っていることを自覚できると何よりの幸福感が得られると思います。本日香川大学を卒業する皆さんが、何歳になっても成長し続けてくれること、そして多くの人々を幸福にするために活躍してくれることを心から祈って、旅立ちを迎えた皆さんへのエールの言葉としたいと思います。本日はおめでとございました。

令和4年度香川大学大学院修了式 学長告辞 令和5年3月24日

本日、香川大学大学院から学位を授与された268名の修了生の皆さん、誠におめでとございます。本日、ここに令和4年度香川大学大学院の修了式を挙げることは、皆さんの指導教員はもとより、香川大学教職員一同にとりまして大きな喜びであります。皆さんを支えて来られたご家族や関係者の皆様におかれましては

感慨ひとしおと拝察いたします。特に本日修了式を迎えられた皆さんは、新型コロナウイルスの感染拡大の中での研究生生活でしたので、これまでの修了生とは違う苦労も経験されたことと思います。学長として敬意を表するとともに、心からお慶びを申し上げます。

本学大学院は皆さんを含め、これで7861名の修了

生を輩出したこととなります。香川大学では多様な学問分野にわたって、修士号を6種と博士号を3種、さらに2種類の専門職修士号を付与しております。これら多様な学問分野で、日々研鑽努力された結果として本日獲得された学位は、皆さんが到達された学問の高みを保証する証です。本日で研究生生活に一旦区切りをつける方も、これからさらに研究生生活を継続する方にとっても本日は新たな出発の日となります。どうか自信と誇りを持って、これからの人生の目標に向かって前進してください。

知の拠点である大学は、何よりも論理的思考による真理の探求を大切にしています。とりわけ大学院では論理的思考を徹底的に磨く場であります。皆さんは研究テーマを決めるにあたって、それぞれ仮説を立てられ、それを科学的に検証するために様々な手法で解析を行い、出た結果を論理的に解釈され、最終的な成果に結びつけられたことと思います。言葉にすれば簡単なようですが、研究にとりかかるにあたっての皆さんの心境は、登ったことのない山を前にした登山者のように不安一杯だったのではなかったでしょうか。現代は、複雑で予測しがたく問題の本質が見えにくい時代と言われています。問題点が隠れていて、その解決法を見出しにくい状況にあると言えます。このような時代には、どんな問題や課題にぶつかってもたじろがず、問題点を洗い出し、その本質を論理的に分析して、乗り越えるためのアイデアを創出できる人材が強く求められます。

未体験の問題に直面した時に、最後にものを言うのは論理的思考力です。大学院での研究生生活で皆さんが身に付けた、物事を客観的に見つめ、問題点を論理的に整理し解決方法を考案する力は、様々な局面で間違いなく役に立つと思います。

さて、寿命の延伸が顕著になり、人生百年時代、ライフプランはマルチステージで考える時代となってきました。ここで社会人として本学大学院に入学され、今回見事博士号を取得された方の中から3名を紹介します。お二人はいわゆる理系女子で、理系学部を卒業後に香川県の勇心酒造株式会社の企業研究員になられた綾木聡美さんと豊田中央研究所の企業研究員の榎原清美さんです。それぞれの会社の第一線の研究員として活躍される傍ら主婦として子育てをされ、今回本学の医学系研究科、工学研究科で博士号を取得されました。このお二人を博士論文研究に再度挑戦させたきっかけは、私の推測ですが、先ほど述べました大学院での論理の世界に再挑戦したいという内的欲求ではなかったかと思えます。もうお一人は、本日工学研究科博士後期課程の総代を務められている山田 哲(さとる)さんです。山田さんは株式会社リコーで製品開発を担当するリーダー的立場の方ですが、最新のシステム開発の方法論を研究したいということで本学の博士課程に入学されました。「ユーザー主導開発」という手法を提案され、学問的にも高い評価の論文を完成されました。「情報技術の発展は目覚ましく、常に学び続けな



いと時代に取り残される」と山田さんは指導教員に語っていたようです。おそらく山田さんが抱いた危機感は、情報分野だけでなく、全ての分野に共通で、学び続けることの必要性が高まっていると思います。

本日特にご紹介した3名の社会人大学院生の様に、自らの知識やスキルのupdateを求める皆さんが、もっと学びたいと感じたらいつでも飛び込んでいただけるように、香川大学大学院は様々な改革をしながら門を大きく拡げて待っております。皆さんもご存じのように、昨年4月に文理融合型の大学院として創発科学研究科修士課程を開始しております。さらに令和6年度の開

設を目指して創発科学研究科博士課程を準備中です。この博士課程では、工学、危機管理学、学術の3つの博士号を出す予定です。農学研究科修士課程修了者の中にもこの博士課程で研究され、学術の博士号取得を目指す学生を受け入れる予定です。本日修士号もしくは専門職修士号を授与された方々も、将来どこかのタイミングで博士課程へ挑戦していただくことを歓迎いたします。いつでも香川大学を訪ねてきてください、待っております。

本日は誠にありがとうございます。

令和5年度香川大学入学式 学長告辞 令和5年4月3日

春爛漫の陽光の下、香川大学に入学された1339名の皆さん、誠にありがとうございます。数ある大学の中から香川大学を選んでくれたこと、大変うれしく思います。また、皆さんを今日まで支えて来られたご家族や関係者の皆様に心よりお祝いと感謝を申し上げます。幸いCOVID-19は終息の様相を見せており、今回の入学式は皆さんと一堂に会してお祝いすることができました。以前は当たり前の様に挙行されていた入学式ですが、皆さんを迎えて入学式が無事挙行できている喜びを、私を含め本学教職員一同あらためてかみしめております。

さて、香川大学は1949年に創立し、今年で74年目を迎えます。しかし、香川大学の原型はもっと古くに礎があります。教育学部、農学部のルーツは明治時代までさかのぼります。経済学部のルーツも大正時代に始まっておりこれら3つの学部は100年以上の長い歴史があります。一方、法学部は1981年に、工学部は1997年に誕生した比較的新しい学部です。さらに1978年に誕生した香川医科大学は2003年に旧香川大学と統合し、現在の新香川大学になりました。その後、5年前には工学部が創造工学部に生まれ変わり、同年に医学部には臨床心理学科が新設されました。昨年4月には、経済学と法学、教育学および工学を加えた4研究科が融合した新しい大学院修士課程である創発科学研究科がスタートしています。このように香川大学の歴史を振り返ると、何回ものリモデリングを経て今日に至ることが分かります。大学は真理の探求を何よりも大切に教育研究機関であり、そういう意味ではゆるぎないどっしりと土の中に根を生やす大きな樹木の様な存在です。しかし、今ご紹介したように、樹木の葉

が絶えず生え変わるように大学は改革を繰り返しています。これはなぜでしょうか。その理由は、香川大学という大木の花となり実となる皆さんが、これからの未来社会で大いに貢献してもらうために必要な教育を行っていく使命があると考えているからです。

香川大学では、皆さんが将来どのような職業についても、また社会のコミュニティの一員としても、かけがえない大切な存在になってもらいたい、と心から願っています。そのため、香川大学独自の教育カリキュラムを用意しています。全学部生に共通の教育の柱としているDRI教育は、全学部生が共有する基盤的スキルを身に付けてもらうものです。Dはデザイン思考のD、RはリスクマネジメントのR、IはインフォマティクスのIです。三つとも初めて聞く方も多いと思います。最後のI、インフォマティクスから少し説明しましょう。今、我々の世界には様々な情報が溢れています。皆さんが卒業後どのような専門分野に進まれても、この溢れんばかりの情報を如何に有効に活用できるかは、必須の能力になってきています。また、人工知能の性能は高度になり、小説を書いたり作曲をしたりすることもできるChatGPTのような人工知能チャットボットも登場してきました。便利なようですが、AIの何たるかを知っていないと人間がフェイク情報などに振り回される可能性も大きくなってきました。このように人工知能が良きにつけ悪きにつけ我々の生活に深く入り込んでくる時代において、インフォマティクス教育は、皆さんがAIを使いこなす立場に立ち、情報を賢く活用するための教育です。次に、DRI教育を構成するデザイン思考教育、D教育について説明します。さきほど人工知能、AIの話しましたが、未来に向かってAI、それからAIの組み込まれた

ロボットやソフトウェアが人間の仕事を大いに支援するようになると予想されます。しかし懸念もあります。オックスフォード大学の調査では、IT技術やAIなどの発達で現在ある職業のうち、20年以内に50%近くがなくなると予想されています。逆に予想もつかない職業も登場するでしょう。このような近未来の社会で人間に求められる役割はどんなものになるのでしょうか？人工知能にはない人間の大きな能力の一つが、共感力ではないかと思います。何かの問題に直面している人を前にした時、その人の感じる不満や苦しみに対して共感できることが第一歩になります。人が感じる不満や苦しみの多くは、ほかの多くの人にとっても、また社会全体にとっても問題であることがしばしばあります。高い共感力を基盤にし、問題の本質を洗い出し、論理的に分析したのちに多様なメンバーでアイデアを創出するプロセス、すなわちデザイン思考の手法を体得することは、近未来社会がまさに求めている人間を中心に据えた

イノベーション創出の基盤的能力となると思います。一方、良いアイデアもそれを実現するためには、前途に様々なリスクが潜んでいます。DRI教育のR教育、すなわちリスクマネジメント教育はデザイン思考と表裏一体の関係で、皆さんにリスク管理のABCを学んでもらいます。DRI教育は香川大学独自の教育の3本柱です。香川大学が目指す目標は、高度電脳化社会の中で悠々と多くの情報を賢く活用し、どのような困難に直面してもくじけず、強靱でしなやかに立ち直り、人々を幸福に導くアイデアを考え出しそれを実現できる、そんなかけがえのない人材の育成です。

大学生活は今日からスタートします。4年あるいは6年間はあっという間に過ぎ去ります。1日も無駄にせず、様々なことに挑戦して共感力を養い、DRI能力を駆使して社会になくってはならない人間に皆さんが育ってくれることを、教職員一同が心から願っています。新入学生の皆さん、頑張ってください。

令和5年度香川大学大学院入学式 学長告辞 令和5年4月3日

本日、香川大学大学院に入学した修士課程ないしは博士前期課程の240名、専門職学位課程52名、博士(後期)課程および博士課程の41名の皆さん、入学おめでとうございます。香川大学の教職員一同とともに

皆さんの入学を心からお慶び申し上げます。また、これまで皆さんを支えて来られたご家族や関係者の皆様に心よりお祝い申し上げます。今日から皆さんは、それぞれの学問分野で研究者としての第一歩を踏み出さ



れます。知の拠点である大学は、何よりも論理的思考による真理の探求を大切にしています。とりわけ大学院では論理的思考を徹底的に磨く場です。長い人生の中で研究に没頭するひときは、皆さんの人生にとってかけがえのない経験になると思います。

香川大学大学院はこれまでに7861名に対して修士ないしは博士の学位を授与してきました。本日はその先輩方の中から、香川大学を代表する希少糖の研究者である香川大学名誉教授 何森 健農学博士のことを少しご紹介したいと思います。何森先生は岡山県玉野市のお生まれで高校まで玉野市で過ごされた後、本学農学部に入学されました。先生は瀬戸大橋が開通する1988年までは、高松港と宇野港をつなぐ宇高連絡船でご実家と大学を行き来されていたようです。農学部の研究者となり、微生物の持つ様々な酵素の研究を開始された何森先生でしたが、博士論文の研究テーマをどうしようかと考えながらいつもの様に宇高連絡船に乗船されて瀬戸内海の海を見つめておられたのでしょうか。先生はユニークな性質を持つ微生物が瀬戸内海には存在するに違いないと着想されたようですが、甲板からバケツで海水を採取しても浅い表面の海水しかすくい上げられません。深い海中の海水を何とか採取する方法がないかと思案に暮れておられたある日、いつもの様に連絡船に乗船すると、連絡船の船体の横から勢よく水が噴き出しているところが目に留まりました。船長に尋ねたところエンジンを冷やすための海水であり、海中から吸引した海水でエンジンを冷やしたのちに船外へ海水が噴出されていることが分かりました。若い香川大学の研究者が変なことを言い出したと船長さんは思ったようですが、何とか船長の許可を得て、何森先生は乗船のたびに機関室の底で瀬戸内海の海中5-6メートルから吸い上げられた海水を採取し、研究室へ持ち帰られました。この時、瀬戸内海の海水から分離した微生物由来の酵素がD-アラビノース・イソメラーゼという酵素だったのですが、このD-アラビノースはのちに偶然にも希少糖に分類されることになりましたし、イソメラーゼという酵素は希少糖の生産に利用できる酵素の一つになっています。農学博士を取得された何森先生はその後も微生物の持つ酵素の研究を根気よく続けられ、香川大学農学部の食堂脇の土の中から採取した微生物を培養し、D-タガトース 3-エピメラーゼという希少糖を生産する最初の酵素を発見されました。現在では50種類を超える全希少糖の設計図を明らかにし、希少糖研究の第一人者となられた何森先生ですが、希少糖生産酵素の発見につながる先生のご研究の足跡には、研究者

にとって大事な教訓がたくさん詰まっています。瀬戸内海の海水にはユニークな活性を持った酵素を持つ微生物が存在するに違いないという着想に基づき、瀬戸内海の深くから海水をサンプリングされた過程は、おそらく毎日毎日、瀬戸内の海水のことを考え続けておられたからこそ気が付かれたことでした。そして、普通の客には入ることのできない機関室に入り込むため、船長さんを口説き落とした熱意と粘り強さ、何回も失敗を重ねられた上で目的にかなった酵素活性を持つ微生物を発見し、ついには論理的な手順で全希少糖の設計図を完成させてしまったエネルギーなどです。研究に失敗はつきものですが、一方で思ってもみない発見に辿り着くのも研究の醍醐味です。皆さんも粘り強い頑張りで、この醍醐味をぜひ味わってみたいと思います。

さて、ICT技術の発達もたらした様々なオートメーション化による第3次産業革命を経て、IoTの進展やビッグデータの集積、さらに人工知能というコア技術がもたらす第4次産業革命の時代に突入し、人間の心理的側面にも大きな変化の兆しが見えます。人工知能やロボットが人間の仕事を肩代わりする時代になり、労働時間は今後徐々に短縮し、人々は余った時間を如何に幸福に消費するかに関心をより注ぐ時代になってきました。当然、産業の在り方も変化し、大量生産や画一的なサービスを提供する時代は終焉を迎え、人々は付加価値のある、よりカスタマイズされたプロダクトやサービスを求める様になっています。香川大学で学士教育から大学院教育まで一貫しての教育の柱としているDRI教育のD、すなわちデザイン思考は、人間中心のイノベーションを生み出す手法を学ぶものです。皆さんには大学院での研究に邁進していただくとともに、ぜひデザイン思考の手法を体得していただきたいと思っております。日本の国際競争力は平成初期の頃は世界1位でしたが、現在は30位前後に沈んでおります。この復活のためには研究力の復活が急務といわれています。研究の内容に関しても、学問分野の垣根を残した縦割りの研究や、既存の研究成果の延長線上の研究だけでは不十分と考えられます。分野を横断した、様々な分野が連携した研究こそが、いわゆる破壊的イノベーションにつながり、日本の国際競争力の再浮上をもたらすのではないのでしょうか。本学大学院でデザイン思考の手法を体得され、分野の異なる様々な教員の指導を受けながら、日本を復活させるイノベーションの創出に挑戦してください。期待しております。



寛先生の「デザイン思考」

池田 豊人 | 香川県知事

香川県知事の池田豊人です。寛先生、大変お世話になりました。これからも引き続き香川の発展にお力を貸してくださいますようお願いいたします。

寛先生と初めてお会いした際に、先生から「これからは、デザイン思考が重要だ。」とお聞きしました。それから、先生とは、先生との対談や、希少糖の研究現場の見学、また、様々な会合での懇談など約1年間の間に数多くの懇談の機会をいただきました。それを通じて、先生の言わんとしている「デザイン思考」がおぼろげながら理解できてきたかなと感じております。そして、先生と会って話している際に先生から感じる、積極性、前向き思考、軽やかさはこの「デザイン思考」からもたらされるものかとも感じます。

ところで、香川県の前の知事に、金子正則知事がおられました。1950年から1974年まで知事を務められた方です。金子知事は「デザイン知事」と呼ばれ、丹下健三設計の香川県庁舎をはじめ公共物のデザイン化に尽力するだけでなく、「政治はデザインだ」をモットーに、県政の課題を次々と実現していったと言われています。私の推測ですが、寛先生のいわゆる「デザイ

ン思考」と相通じるものがあるように思います。

また、「デザイン思考」は、具体的な造形やモノづくりによって養われる要素も大きいと思います。その観点からいえば、香川県にはデザインの素養がある方が他県に比べてたくさんおられるように思います。香川県が歴史的に「アート県」であることに起因していますが、例えば、高松工芸高校から毎年125名の芸術系3学科の卒業生が送り出されていることも大きな要因の一つだと思います。香川県は、これから「デザイン思考」よっての発展を目指したいと思います。

寛先生は2001年に香川医科大(現香川大医学部)教授で香川に来られて、おおむね四半世紀にわたり、香川県の発展にご尽力、ご貢献いただきました。あらためて感謝申し上げます。この寛先生が、長い間にわたって若い学生さんや香川県に浸透させた「デザイン思考」は、これからの香川県の発展の礎となるでしょう。

寛先生、これからもご指導よろしく申し上げます。ありがとうございました。



『寛学長とのこれまでとこれから』

日比野 克彦 | 東京藝術大学 学長

寛先生と始めてお会いしたのは、2016年に副学長として東京藝術大学に来られた時でした。私は当時美術学部長として、その会に出席させていただいていました。内容は大学に新たに芸術系創造系の学部を創っていくにあたっての、東京藝大への視察で、その折には芸術系の学部の特徴などを話させていただきました。私にとって香川という地名の印象は瀬戸内国際芸術祭が強くありましたので、その地元の香川大学に創造系の学舎を考えておられるというのは、大変関心を持って寛先生と話をさせていただいたことを今でもよく覚えています。それから2年後に創造工学部が新設されました。瀬戸内海に面する香川県と東京藝大は約20年ほど前から連携し、平成30年には都道府県レベルで全国初となる連携協定を結びました。東京藝大にとっても香川県はとても親しい地域です。そしてその地域の中核大学としての香川大学に創造工学部ができたことにより、よりアカデミックに香川との連携を進める大きな推進力となりました。文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」を東京藝大が申請するにあたり、香川大学との連携を考えるに至ったの

も、寛学長との話の中で実現することができました。改めて深く感謝いたします。今後ますます香川大学と東京藝大の連携を深めていき日本の世界の教育研究機関として特色のある活動をしていきたいと考えています。この申請が採択されたことにより庵治のマリンステーションエリアに「芸術未来研究場」が生まれ、今後の両校の拠点となっていく予定です。また、2022年から始まった東京藝術大学瀬戸内海分校プロジェクトの活動拠点としては同年にできた高松市内の香川大学イノベーションデザイン研究所新棟で創造工学部の学生と地元の高校生と東京藝大出身のアーティストらとのワークショップを行っており、互いの大学の特性を活かした文理融合の教育が実践することができています。このような環境から次の社会を動かしていく人材が育っていくことだと確信しています。私は学長2年目ですが、寛学長の6年にわたる大学運営の実績を見習って頑張っていきたいと思っております。長年の大学での活動お疲れ様でした!さまざまな機会でご指導をよろしく願いいたします。